

令和6年度授業改善推進プラン

教科名

数学

○はすぐに取り組むこと

学年	指導上の課題	具体的な授業改善策（補充・発展等）
1 年	・基礎学力（特に計算力）の定着・向上 ・授業に主体的・積極的に取り組む姿勢の育成 ・学力調査、定期考査の結果分析から（『思考・判断・表現』の観点の問題）	○習熟度別少人数クラスを『基礎』『標準・発展』の2コースとし、コースに応じた授業を展開する。基礎コースではより丁寧な説明を行うとともに、個に応じた指導を充実させ、基礎・基本の定着を図る。標準・発展コースでは、話し合い活動等で主体的に自分の考えを他者に伝える姿勢を養うとともに、深い学びを実践していく。 ○単元テストや定期考査を用いて、全体の到達度を確認する。単元によっては学び直しの機会を設ける。 ○タブレット学習では、課題の複線化をし、個に応じた教材に取り組ませる。また、自分なりに調べ、まとめたことを表現する活動に取り組むことで、主体的に学習に取り組む姿勢を養っていく。 ○授業で教え合いや学び合いを行い、主体的に学ぶことのできる環境を作る。 ○計算問題を確実に解く力が弱い。また、既習事項を活用して考える力にも課題が残っている。基礎コースでは基礎的な問題を中心に、計算力を高める課題を、発展コースでは既習事項を活用できる課題を設定していく。
2 年	・基礎学力の定着・向上 ・授業に主体的・積極的に取り組む姿勢の育成 ・学力調査、定期考査の結果分析から（『思考・判断・表現』の観点の問題）	○授業で教え合いや学び合いを行い、主体的に学ぶことのできる環境を作る。 ○既習事項を活用して、問題解決に取り組み、よりよい考え方を、グループ活動などを通して探求する授業を行う。 ○定期テスト前後に補習を実施する。 ○数学が苦手な生徒を対象とした、昼休みの教えあい学習を実施する。 ○基本的な知識及び技能が定着している生徒が少なく、既習事項と関連づけて指導をしていく必要がある。 - 既習事項とのつながりや、日常生活・他教科との結びつきを実感できるような課題を提示していく。
3 年	・学習到達度に関きがあり、学力格差が大きい。 ・授業に主体的・積極的に取り組む姿勢の育成 ・基礎学力の定着・向上 ・入試に向けての対策 ・学力調査、定期考査の結果分析から（『思考・判断・表現』の観点の問題）	○授業の冒頭に前回の授業で扱った内容を振り返り、復習問題を1題取り扱う時間を設定する。 ○単元テストと単元の振り返りを行うことで、一人一人の到達度の把握をし、個別の支援を行う。 ○放課後に教員による質問教室を定期的実施する。 ○定期テスト前の昼休みに、生徒同士の教え合い教室を行う。 ○1月～2月に入試対策として、分野ごとに演習の時間をとる。また、模擬試験を全5回行う。 ○3年になり、基本的な知識・技能を習得している生徒は増えた。一方で、知識・技能を活用できず、『思考・判断・表現』の観点の問題に課題がある。 ○統計分野の正答率が低い。学び直しをできる機会を設ける。 ○『標準・発展』コースでは、いくつかの単元が複合的に出題されるような問題を扱い、既習事項を活用しながら解けるようにしていく。

